

Daily Report (号外)

～新型肺炎の感染拡大を背景とした世界同時株安について～

概要

日本が休日であった24日、世界的に株式市場は大幅下落しました。足元で新型コロナウイルス感染の震源地である中国では感染者の増加ペースが鈍化してきた一方、韓国やイタリア、イランなど中国以外の地域で感染者が急増したことから、市場心理が大きく悪化しました。

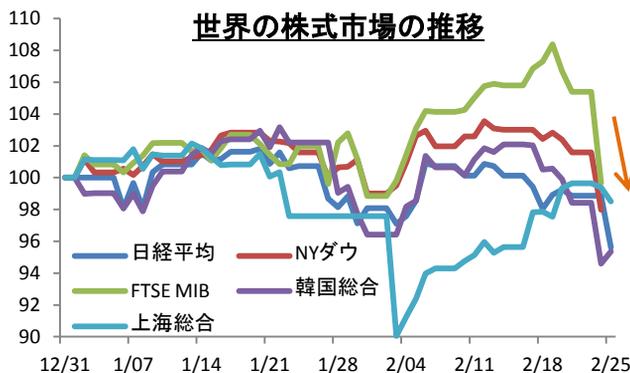
24日は感染者が800人を超えた韓国では総合株価指数が▲3.9%、200人を超えたイタリアではFTSE MIB指数が▲5.4%下落しました。こうした売りは米国株式市場にも波及し、特に年初来の上昇を牽引してきた大型ハイテク株や半導体関連株への売りが加速したことから、NYダウは▲3.6%下落し、下落幅は1,031ドルと過去3番目の大きさとなりました。

一方、債券市場では、世界経済の減速への懸念が急速に高まったことから、米国10年国債金利は1.3%台に急低下、また為替市場では一時110円台前半まで円高・米ドル安が進行しました。

こうした中、米国では年内の利下げ観測が高まり、FF金利先物市場は年2回の利下げ実施をほぼ織り込む水準となりました(1回あたりの利下げ幅を▲0.25%と想定)。

(株式市場急落の背景)

米国の対中経済依存度の相対的な低さやアジアからの地理的な遠さに加え、ハイテク株の成長期待の高さから米国の主要株価指数はこれまで過去最高値の更新が続いてきました。24日の急落は中国以外での感染の急拡大を背景とした利益確定売りが主因と見られます。また先週21日に発表された2月の米サービス部門PMI(購買担当者景気指数)が予想外の悪化となり、米国経済の減速懸念がにわかに高まったことも影響した模様です。加えて、中国当局の政策対応により同国経済の先行きはV字回復すると、市場参加者の見方がやや楽観に傾き過ぎていたことも、24日の下げ幅が大きくなった要因と言えそうです。



※2019年末=100、(期間)NYダウ・FTSE MIB:2019/12/31～2020/2/24、日経平均・韓国総合・上海総合は2019/12/30～2020/2/25 11:30 日本時間、(出所)Bloomberg



(期間)2019/12/31～2020/2/24、(出所)Bloomberg

今後の見通し

新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大したことから、当面は日米欧の株式市場は下値を模索する展開を想定しています。

一方、上海総合株価指数は2月初に底を打った可能性が高いと考えています。背景には、新規感染者数の頭打ち観測(当局発表ベースのピークは2月初)と、積極的な政策対応があり、これはSARS感染拡大後の回復パターンと類似しています。

→次のページへ

感染拡大の収束時期について見通しを立てることは専門家でも困難であり、予断を許さない状況にあります。一段の感染拡大に対しては各国とも積極的な政策を打つことが期待されること、一般的にウイルスの活動が鈍ると言われる気温上昇期に向かうこと、等から、株価は徐々に下値を固めていく展開を予想します。

米金利については、経済への影響が相対的に軽微と思われる米国に資金が向かう動きが強まることから、当面上昇しにくい環境が継続すると考えているものの、現状市場が織り込む複数回の利下げが必要なほどファンダメンタルは弱くはないと見られることから、感染拡大の収束とともに株価同様に徐々に反発に向かうものと考えています。

(ご参考) 今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
3月	18-19日: 日銀金融政策決定会合	3日: スーパー・チューズデー (米大統領選民主党予備選挙) 17-18日: FOMC	12日: ECB理事会
4月	27-28日: 日銀金融政策決定会合	28-29日: FOMC	30日: ECB理事会
5月			10日: ポーランド大統領選
6月	15-16日: 日銀金融政策決定会合	9-10日: FOMC	4日: ECB理事会 30日: 英国のEU離脱移行期間 延長申請の期限

出所: Bloomberg